

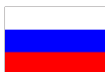
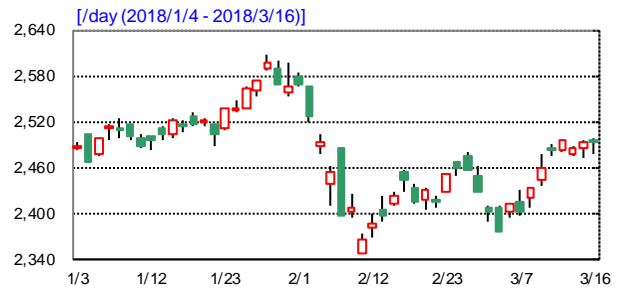


【韓国】 総合指数は週間で1.4%高と続伸、今週は米FOMCなどで上値重い

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.4%高と続伸。総じて買いが優勢な展開だった。週前半は北朝鮮を巡る地政学リスクの後退や米ナスダック総合指数の史上最高値更新などが好感され、サムスン電子やSKハイニックスといったハイテク銘柄に買いが入った。ただ、週半ば以降は米政府の閣僚や政府高官の相次ぐ辞任で政権運営の不透明感が強まったほか、米国発の貿易問題に対する懸念も拡大した。指数は節目の2500ポイントを前に上値が重かったものの、結局、約1カ月半ぶりの高値圏で週の取引を終えた。今週は20-21日に開催される米FOMCやパウエルFRB新議長の会見、23日の米国による鉄鋼やアルミニウムに対する輸入制限の発動などを控え、上値の重い展開か。国内では20日に2月の生産者物価指数(PPI)が発表される。

▼指数チャート

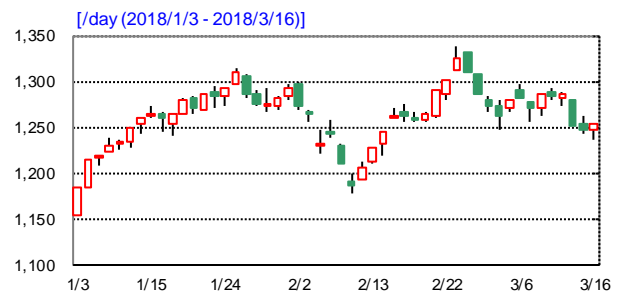


【ロシア】 RTS指数は週間で2.4%安と反落、今週も下落基調が続く

先週の動き／今週の展望

RTS指数は週間で2.4%安と反落。週序盤は前週末の終値付近でもみ合いとなったが、週半ば以降は欧米による経済制裁の追加に対する警戒感が広がり、値を崩した。原油価格の軟調な推移も重し。週明け12日は小幅なプラスで寄り付いたが、その後は週末まで弱含んだ。英国で起きたロシアの元情報機関員に対する暗殺未遂事件に加え、米政府が15日に2016年米大統領選挙への介入やサイバー攻撃に加担した疑いでロシア連邦保安局(FSB)とロシア軍参謀本部情報総局(GRU)を含む5団体と19人の個人を対象に制裁措置を導入すると発表したことも嫌気された。16日は下落基調で取引が開始されたが、値ごろ感から買い戻され、前日比0.6%高の1254.29ドルで取引を終了した。今週は下落基調が続くか。

▼指数チャート

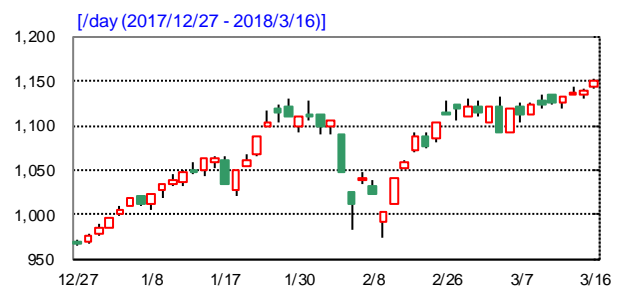


【ベトナム】 VN指数は2.4%高と5週続伸、今週は良好な市場心理の下で続伸か

先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で2.4%高と5週続伸。総じて堅調な展開で、主力銘柄が利益確定売りを交えながらも上値を伸ばし、指数はほぼ11年ぶりに1150ポイント台を回復した。8日にベトナムなど11カ国が「包括的および先進的環太平洋連携協定(CPTPP)」に署名したことや、EUとベトナムの自由貿易協定(EVFTA)の発効で、輸出額の伸びに期待が高まったことが支援材料。指数は週明け12日に前週末比1.1%高で寄り付いた後、プラスで取引を終えると、週末まで5営業日続伸。16日は寄り付き直後に下落したが切り返し、場中に1152.52ポイントまで上昇。前日比1.0%高の1150.19ポイントで取引を終え、2007年3月以来の高値を更新した。市場のセンチメントは良好で、今週は高値警戒感があるものの続伸か。

▼指数チャート

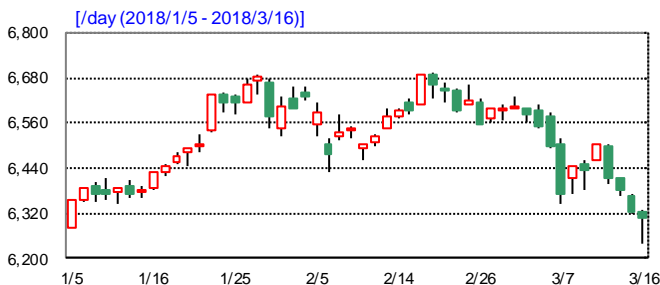


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.0%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 2.0%安と 3 週続落。週初こそ上昇したものの、その後は軟調な値動きが続いた。12 日は前週末の NY ダウが大幅続伸した効果で前営業日比 1.0%高と反発。ただ、勢いは続かず 13 日に前日比 1.4%下落すると、14 日には終値ベースで 5 営業日ぶりに 6400 ポイントを割り込んだ。15 日は金融株と通信株が売られて、指数は前日比 1.0%安。同日に発表された 2 月の貿易収支は 3 カ月連続で赤字だった。16 日も下げ止まらず、結局 4 日続落して取引を終えた。今週は 22 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、政策金利は 6 会合連続で 4.25%に据え置かれるとの見方が優勢。

▼指数チャート

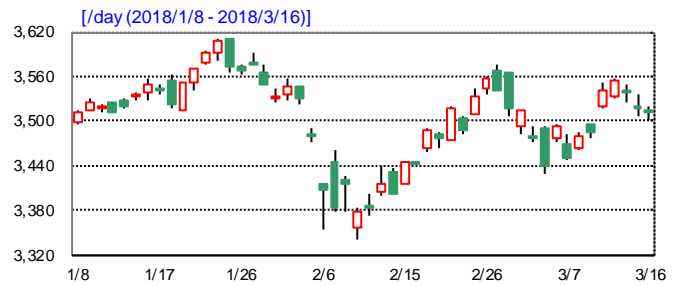


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.8%高、今週は 23 日に 2 月の CPI 発表

スレーツタイムズ指数は週間で 0.8%高と続伸。週前半の上昇が奏功した。12 日は英系コングロマリットのジャーディン・マセソンが指数上昇をけん引し、終値ベースで前営業日比 1.6%高と 7 営業日ぶりに 3500 ポイントを回復。13 日まで 4 営業日続伸したが、14 日はティラーソン米国務長官の解任や、中国の知的財産権侵害に対する米国の制裁報道が嫌気されて反落した。その後は買い材料に乏しく、16 日は 2 月の非石油地場輸出が前年同月比 5.9%減と 5 カ月ぶりにマイナスに転落した影響で 3 日続落して取引を終えた。今週は 23 日に 2 月の CPI が発表される予定で、上昇率の市場予想は前年同月比 0.6%。

▼指数チャート

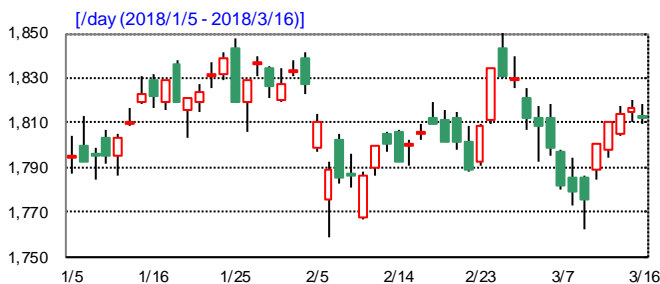


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.0%高、今週は 2 月の貿易統計が焦点

SET 指数は週間で 2.0%高と反発。国内の重要イベントが少ない中、前週の反動でじりじりと上値を広げた。週初の 12 日は金融株とエネルギー株が買われて、指数は終値ベースで前営業日比 1.4%高と 9 営業日ぶりに反発し、1800 ポイントを回復。その後も 15 日まで 4 日続伸と堅調に推移したが、16 日は反落して引けた。今週は 2 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定で、2 カ月連続で赤字だった貿易収支が黒字を回復するかが焦点。外部要因では 20-21 日に開催される FOMC で利上げが実施される可能性がほぼ確実となっているほか、今後の利上げペースに関するパウエル議長の発言にも注目が集ま

▼指数チャート

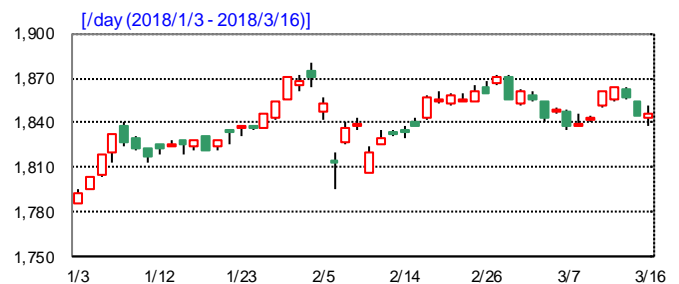


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%高、今週は議会解散の動きに注目

クアラルンプール総合指数は週間で 0.1%高と小幅ながら 3 週ぶりに反発。米国の情勢が指数を左右した。12 日は前週末に発表された米雇用統計で、賃金の伸びが市場予想を下回り、利上げペース加速への懸念がやや低下したことが好感されて上昇。13 日は 1 月の鉱工業生産と小売売上高が市場予想から下振れしたものの影響は小さく、4 営業日続伸したが、14 日は貿易戦争への警戒感が再燃したことが嫌気されて反落した。今週は 21 日に 2 月の CPI が発表される予定。先週には下院議会の総選挙に向けて今月末にも議会が解散される可能性が報じられており、株式市場でも今後の動向に注目が集まりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合もあります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。